

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 15 日現在

機関番号：16101
研究種目：基盤研究 (C)
研究期間：2009 ~ 2012
課題番号：21520377
研究課題名 (和文) オーラル・ヴィジュアル叙述における戦時上海 (1937-1949) の話劇・映画
研究課題名 (英文) Spoken Drama and Film in Shanghai during the War Times : An Oral and Visual History, 1937-1949
研究代表者
邵 迎建 (SHAO YINGJIAN)
徳島大学・大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・教授
研究者番号：30375315

研究成果の概要 (和文) : 本研究は中国話劇史 (1945-1949) の空白を埋め、話劇と映画、日中戦争期と内戦期を結びつけ、オーラル・ヴィジュアル及び観客の目線を導入し、上海文化の原風景を明らかにした。これを基に喜劇とドタバタ劇の流を浮上させたと同時に重要な芝居やキーパソンと日本、中国、共産党、国民党及び文化を受容する大衆との絡み合う関係の解明により歴史の複雑さと豊かさを呈示し、「忠」「奸」を基準とする定説を打ち破ったのである。

研究成果の概要 (英文) : In reconstructing Shanghai's cultural scenes during the war times this project uses a great deal of oral and visual materials, including interviews with the contemporaneous cultural practitioners and audiences as well as videos of historical recording. It represents the first study on Spoken Drama during the period of the Civil War, breaking down boundaries between "spoken drama" and "film" as well as the conventional periodical separation of the Civil War from the Sino-Japanese War. Focusing on the so far neglected genre of comedy and force shows, and sorting out their origins, this study uses some of the key products and their producers to unravel their complex relations with the Japanese, the Nationalist Government, the Communist Party, and the audiences. By doing so this study effectively challenges the clear-cut boundaries between the "loyalists" and the "collaborators" in its effort to bring back the complicity and richness of this history.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：中国文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：戦争、上海、話劇、映画

1. 研究開始当初の背景

本研究を申請した 2008 年当初、中華人民共和国の話劇・映画史は 1937 から 1945 年までの日中戦争期、1945 から 1949 年に内戦期という政治的な区分に基づいて書かれており、日中戦争期、特に太平洋戦争が勃発した後の「淪陥期」（1941 年 12 月 8 日—1945 年 8 月 15 日）の上海の話劇、映画のほとんどの作品はタブーとされ、内戦期に至っては国民党を風刺する劇目しか記述しておらず、映画史に戦争の傷などを描写する作品がクローズ・アップされているが、ヒットした『国魂』（1948 年、香港）が依然として名がない。また、研究方法は発信者である作者及び生産されたテキスト（脚本）を対象に文字資料を用いるのが主流である。この現実疑問を感じ、「オーラル・ヴィジュアル叙述」の視点を導入し、戦時期（1937—1949）を一本化する新しい上海文化史を作必要があると思われた。

2. 研究の目的

本研究は中国話劇史（1945—1949）の空白を埋め、話劇史と映画史、「日中戦争期」と「内戦期」を結びつけ、戦時期（1937—1949）を一本化する新しい上海文化史を作るのは第一の目的である。方法としては「オーラル・ヴィジュアル叙述」を軸に複雑な思想、政治状況を背景としたテキストの多義性が如何に視覚化され、如何に観客に受容されたのかを分析・解明し、戦争期の文化と人間の心の関係に照明を当て、「日本」「中国」、「共産党」「国民党」という二項対立の枠組及び文字テキストと視覚図像との境界線を超えて既存の価値観を破り、新たな枠組を構築した上に新しい文化史を作り出す試みである。

3. 研究の方法

(1) 証言者である方々へのインタビューを行

う。

(2) 『申報』を中心に調査し、1945—1949 年の話劇・映画の年表を作成する。

(3) 上海・東京の図書館を中心に中国・日本各地で劇評・映画評論及び写真などの非文字史料を調査・収集する。

(4) 「オーラル・ヴィジュアル叙述」を中心に枠組を構築して史料を分析、総括する。

4. 研究成果

(1) 劉厚生氏、洪謨氏、胡導氏へのインタビュー及び『申報』の調査により、内戦期における話劇の状況を明らかにした。

(2) 1945—1949 年の話劇の演目を明らかにし、年表を作成した。

(3) 著書『抗日戦争時期上海話劇人訪談録』（全 274 頁、秀威資訊、台北、2011）

『上海抗戦时期的話劇』（全 373 頁、北京大学出版社、2012）を刊行した。

上述の著書により、映画、話劇団の組織変遷、話劇の詳細な公演年表（1938—1945）を公表した。これをベースに 54 の演目を論じ、観客の目線で「ヴィジュアル」状況を明らかにし、話劇の喜劇・ドタバタ劇の流れを浮き彫りにし、話劇史の空白を埋めた。

(4) 中国の話劇史における「漢奸」芝居と位置づけられた『江舟泣血記』を鍵として取り上げ、その元は反帝国主義の經典である『吼えろ、中国』であると判明し、当事者の各側面—公演を許可した日本陸軍報道部、主催側の汪兆銘政府指導下の「中華民族反英米協会」、中日双方の責任者、俳優、観客、輿論メディア及び公演の現場、公演後の反応について具体的かつ詳細に考察、分析を行い、多方面から事実そのものの複雑性を呈示した上、戦時中における日本、汪傀儡政権の政治、文化政策の流動的な状況および上海映画界を統制した日本映画人の川喜多長政の文化

観と文化方針を解明した。また公演劇団の「孤島」期及び内戦期の活動に繋げて統合的に考察することにより、戦時上海映画人は「借古喻今、借西喻東」という手法で「反日本帝国主義」の核心的な価値観を浮かび上がらせた。これらより、中国の「精神領域の戦士」と呼ばれる銭理群氏は中国のトップ新聞紙『人民日報』での書評で、「本書の意義は『上海抗戦時期の話劇』という具体的な課題と分野を超え、主観による選択ではなく客観的に、歴史の複雑さ及び豊かさを呈示することを目標とする研究方法を提供し、現在の中国の学術研究に特に啓発性に富む示唆をしてくれた。」と高く評価される。

(5) 上海話劇人と映画人の戦後の活動、即ち人の動きを考察し、香港映画と、上海話劇との継承関係をあきらかにした。『国魂』『花街』の「ヴィジュアル」叙述をもって戦時映画を逆照射し、上海映画人及び観客の「心」を解明した上、内戦期と日中戦争期の話劇、映画及び政治、政党との関係を明らかにした。以上の成果により今まで政治権力者の視点を反映する「忠」「奸」という二項対立の価値観を打ち破り、新しい文化史を作り上げたのである。

(6) 戦争時期における話劇と50年代以後の香港との繋がりを発見した。20世紀中盤における中華文化圏のヴィジュアル叙述の系譜研究へと、今後の継続研究課題を見つけた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

① 邵迎建 「“女子”世界——早期上海劇芸及話劇運動」『文化自覚及人文東亜』(校正済み) 人民文学出版社、278～293頁。2013年、査読なし。

② 邵迎建 「日中戦争期における『吼えろ、中国』の公演をめぐって」『中国研究月報』Vol. 66, No. 5, 1～16頁、2012年、査読あり。

(CiNii: 110009445161)

③ 邵迎建 「“出走”与“上楼”——女性・時代・政治」『安徽師範学院学報』Vol. 1, 2～6頁、2012年、査読あり。

④ 邵迎建 「“怒吼吧、中国”」『中日文化比較研究論集』Vol. 2, 326～335頁、2011年、査読あり。

⑤ 邵迎建 「從『正気歌』到『文天祥』——抗日戦争時期的上海影劇」『現代中文学刊』Vol. 6, 58～67頁、2010年、査読あり。

⑥ 邵迎建 「芸人浮彫—石揮——視覚叙事的抗戦時期話劇」『抗戦文化研究』Vol. 4, 191～205頁、2010年、査読あり。

⑦ 邵迎建 「家破国碎思家国——四十年代的上海話劇与“五四”精神」『解放军艺术学院学报』Vol. 3, 16～27頁、2009年、査読あり。

[学会発表] (計6件)

① 邵迎建 「占領区上海における二つの選択」2012年6月17日、電気通信大学(東京都)、日中人文科学学会総会及び第10回研究発表大会特別講演。

② 邵迎建 「“行く人”“留まる人”——占領地上海の住民に関する政治」、「文学と政治——二十世紀中国文学経験と理論」国際シンポジウム、紹興(中国)、2011年10月15日、中国文芸理論学会・紹興文理学院人文学院主催。

③ 邵迎建 「吼えろ、中国」、「融合、共同、互動」国際シンポジウム、瀋陽(中国)、2010年9月10日、中国東北大学・日中人文社会科学学会主催。

④ 邵迎建 「日中戦争期の上海話劇研究(1937-1945)——『申報』の広告及びオーラル・ヴィジュアル叙述を中心に」、「中国現

代文学新史料の発掘と研究」国際シンポジウム、北京（中国）、2009年11月1日、中国現代文学館・中国現代文学学会主催。

⑤ **邵迎建** 「国際ラウンドテーブル：上海都市空間の中の演劇、映像」、早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム、早稲田大学（東京都）、2009年6月6日、早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム主催。

⑥ **邵迎建** 「家破国砕思家国——四十年代の話劇及び「五四」精神」、「五四与中国現代文学」国際シンポジウム、北京（中国）、2009年4月24日、北京大学中文学部・二十世紀中国文化研究中心主催。

〔図書〕（計4件）

① **邵迎建** 『上海抗戦時期的話劇』北京大学出版社、373頁、2011年12月。

② **邵迎建** 『抗日戦争時期上海話劇人訪談録』秀威資訊、234頁、2011年7月。

③ **姜進、晏妮、邵迎建等** 『娛悦大衆 民国上海女性文化解読』「從表演女性到女性表演」上海辞書出版社、255～287頁、2010年2月。

④ **高綱博文、菊池 敏夫、邵迎建等** 『建国前後の上海』『正氣の歌』から『文天祥』へ』研文出版、345-372頁、2009年6月

〔その他〕

ホームページ等

<http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/131231/work-ja.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

邵 迎建 (SHAO YINGJIAN)

徳島大学・大学院ソシオ・アーツ・

アンド・サイエンス研究部・教授

研究者番号：30375315

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者